

久谷（荏原・坂本）地区タウンミーティング

平成24年5月10日（木曜）

【市長】 皆様こんばんは。今日は平日、木曜日の夜間ですが、このようにたくさんの方が、お仕事のお疲れもあろうかと思いますが、このようにたくさんの方がお集まりいただきありがとうございます。また、このタウンミーティングの開催に当たりましては、久谷地区総代会の相原会長はじめ、荏原、坂本両公民館の館長さん、そして、両地区の役員の皆様方のお力添えを賜っております。感謝を申し上げたいと思います。このタウンミーティングでございますけど、松山市41地区中、25地区目ということになります。ちょうど半分を過ぎております。このタウンミーティングですけれど、公民館区域ごとに開催をしておりますけども、今回は荏原と坂本地区合同でということになります。これは、中学校は久谷中学校、そして社会福祉協議会、民生児童委員協議会も久谷地区1本で活動しております。共通する課題も多く、そして地域の魅力、課題を両地区が共有していただいて地域全体の大きな視点で地域づくりを考えていただきたいと考えまして、今回は合同でのタウンミーティングの開催とさせていただきました。ご理解をいただきたいと思います。このタウンミーティングですけれど、私が就任させていただいてから始めさせていただきました。なぜ始めたかといいますと、市役所で皆様が来られるのを待ってるほうが楽です。はたしてそれでいいのかと思いました。各地区ごとに我々が出て行って、地区の魅力を聞かせていただく、そして問題点や課題点を教えていただく、こちらから出向くことが大切ではないかと考えましてタウンミーティングを始めさせていただくこととしました。そしてもう一つ、ちょっとこれ職員たちにはしんどいことをもう一つさせておりますけれど、このタウンミーティングはやりっぱなしにはしない、聞きっぱなしにはしないことをモットーにしております。やりっぱなしにする、聞きっぱなしにする、聞いているふりをすれば楽だと思えます。それはいたしません。こちらでお答えできることはもちろんお答えをして帰りますし、中には持ち帰らせていただいて検討するという項目もございます。例えば国と絡むもの、県と絡むもの、また財政的な問題があるもの、こういったものはいったん持ち帰らせていただいて、例えば国に問い合わせる、国から答えが返ってくる。県に問い合わせる、県から答えが返って

くる、それをもとに松山市としての考え方をまとめる、そしてこちらの地区に考えをお返しさせていただきます。必ず持ち帰ったものは考えをお返しさせていただきますけど、大体1カ月をめどに返答することになっておりますので、やりっぱなしにはしない、聞きっぱなしにはしないというのが、この松山版のタウンミーティングのモットーでございます。さて、この久谷地区でありますけど、松山市の行政もいろんな分野にわたります。水道のこともそうですし、下水道のこともそうですし、学校のこともそうですし、松山市の仕事というのは非常に広い範囲に及びます。今日は各部長、企画官、課長、市の幹部たちを連れてきているわけですけどそれぞれ自己紹介いたしますので、よろしくお願いいたします。

【市民部長】 皆さんこんばんは、市民部長の三好と申します。このタウンミーティングの統括をいたしております。普段の仕事としましては、窓口における住民サービス、市民課とかこの支所であります、22支所7出張所、パスポートセンター、消費生活センターでいろんなサービスをしております。あと、地域におけるまちづくりとか、人権啓発、男女共同参画そういった広い仕事をいたしております。本日はよろしくお願いいたします。

【社会福祉担当部長】 皆様こんばんは、保健福祉全般を担当します社会福祉担当部長の大濱でございます。本日はよろしくお願いいたします。

【企画政策課長】 皆さんこんばんは、市の総合計画の策定、新規事業、複数の部署にまたがる事業の調整を担当しております、企画政策課の河合と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

【都市政策課長】 皆さんこんばんは、都市政策課の白石と申します。都市整備部では道路、公園などの整備、維持管理を行っております。どうぞよろしくお願いいたします。

【産業政策課長】 皆さんこんばんは、産業政策課長の大崎と申します。産業経済部では、観光、地域経済、農林水産、農林土木、そういったもの全般取り扱っております。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

【保健体育課長】 皆さんこんばんは、教育委員会保健体育課長の松木と申します。保健体育課では、学校保健、学校体育、学校安全、そして学校給食を担当しております。どうぞよろしくお願いいたします。

【市長】 私からタウンミーティングがどうやって開催されるのかご紹介いたし

ます。90分間、8時半ころまでということになります。まずは魅力について皆さんと話をさせていただきたいと思います。なぜ最初に魅力なのかというと、先ほど松山市は41地区に分かれると申し上げました。ここで行政が中心になってまちづくりをしていきましたら、金太郎あめのような地区が41できてしまいます。その地区の魅力について一番知っているのは誰かということ、その地区に住む皆さんが一番よくわかってらっしゃいます。ですので、その地区ならではのまちづくりができればその地区が輝く。各地区の魅力がアップすると、その集合体である松山市はより輝くということが言えると思いますので、まずは皆さんに魅力について再認識をしていただこうと思います。そして、農業の振興と高齢者の福祉について、そしてテーマ3、児童の育成と生活環境の整備についてという3部構成になっておりますけども、あまりとらわれることなく、90分ありますから、あまり肩ひじ張っているとさすがに疲れてしまいますから、あまり肩ひじ張らずに、ざくばらんにしていただいたらと思います。私から冒頭のあいさつの結びにといいましょうか、この久谷地区で大変感謝申し上げたいことがあります。それは坂本幼稚園の芝生化です。これは、5つぐらいのメリットがあって幼稚園、保育園の芝生化させていただいておりますけども、坂本幼稚園、坂本地区の皆さんがすごく頑張ってやっていただいて、見事な芝生ができました。子どもたちがはだしで笑顔で喜んで遊んでいたのが大変印象深い光景でありました。地区の皆さんとやるというのが大事な芝生化でしたので、心から感謝を申し上げたいと思います。今日は皆さんと前向きな議論をできればと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【男性】 久谷地区の魅力についてかいつまんでお話申し上げたいと思います。久谷地区は、昭和31年に旧坂本村、荏原村が合併しまして久谷村になりました。それから12年たちまして43年に松山市と合併しました。松山市の南部にあって、非常に風景のいい田園地帯であり、中山間地域でございます。特に緑にあふれて本当に空気がきれいですし、この上ない環境の地域でございます。そういう中で人口は10,900人くらいですが、この地域も高齢化が進んで、65歳以上の高齢者は約3割、やはり少子高齢化が進んでおるのが実態でございます。その中で、この地域は何が特色かといいますと、やはり歴史的には遍路道文化遺産でございます。松山市内で8つの四国八十八箇所の札所がありますが、そのうち

この久谷地区には2つ、それから番外で別格で文殊院というのがあります。46番札所は浄瑠璃寺、47番が八坂寺、そして恵原町の別格霊場29番札所が文殊院、そういうのがありまして、非常に遍路道文化が栄えておるところでございます。去年は市長も来ていただきまして、松山市と南海放送でフィールドミュージアムのサブセンターゾーンということで、久谷の散策里山ウォークを実施いたしました。そういう中でこの地域を、松山市内全体の方、あるいは県外の方でも見ていただくということでやっておりますが、最近では「四国へんろ道文化世界遺産化の会」という、この四国八十八箇所を世界遺産に登録しようじゃないかということで、三坂峠から文殊院、八ツ塚古墳群まで毎年5月ころに、へんろ道グリーンウォーク、遍路道を掃除しながら歩いて、名所、史跡を歩いて回るということにしておるのが実態でございます。そういう遍路道文化の中で、この地域はお接待の心、おもてなしの心、それから人情味に厚い地域の里でございます。そういう意味では、本当に善男善女が集まって、この地域を盛り上げておるのが久谷地区の特色であると思っております。そういう中で文化財、史跡もかなり多くあります。今言いました46番札所、それから47番の八坂寺の寺物も国や県、松山市の指定になっておるのが実態でございます。その中で文化財と史跡につきましては、文殊院と八ツ塚、これは弘法大師と衛門三郎えもんさぶろう伝説の中から出ておりますが、これが恵原町に41年、松山市の指定であります。それから2番目は渡部家住宅、渡部操長綱さんが東温からこちらに来て、庄屋としてこの地域を統括しておったという、非常に歴史ある、国の重要文化財に45年になっております、渡部家住宅。それから荏原城跡、県の指定文化財になっておりますが、恵原町の中にありますけども、今はお堀と鳥居だけになっておる。昔は平岡という殿様がこの地域を仕切って、平岡城とも言われておりますけども、荏原城を統括しておった。それから国指定や県の指定にはなっておりませんが、この地域には大友山、それから新張みはりには土岐神社というのがありますし、尉じょうの城とか徳川城とも言いますが、尉の城の上には土岐神社の山城があったと。それから坂本では窪野ほうごんじに道後の宝蔵寺いっぺんしょうにんの一遍上人の修行の地、窪野の里がある。一遍上人、窪寺遺跡ということで踊念仏で有名な一遍上人がおります。そういうことで非常にこの地域は歴史と文化財に恵まれた地域でございます。なお、伝説では、先ほどお話ししました弘法大師と衛門三郎のいわれ、これはこの地域でお接待の心があるとい

うのはそういうことから来ておると思うんですけども、その伝説があります。それから久谷の里物語ということで、公民館活動でもいろんところで講演がされておりますけども、伊予の八百八狸、久谷の八百八狸ということで久谷町の山口霊神社で、金平狸の祭りが行われております。隠神刑部^{いぬがみきょうぶ}という狸の長がおりまして、非常に悪さをしよったんですけども、後に改心をして村人のために尽くしたという伝説。それから出口^{いでぐち}の金毘羅神社の中には、金平花大明神^{きんべいはな}というのもあります。それからこの近くでは、金森大明神といって上野の大宮八幡さんに狸が住んどって、毎年4月の29日には金平狸の祭りをやっておる。そういう伝説もあるし、文化財、史跡も非常に恵まれたこの地でございます。ただ、これらの文化財とか史跡をどう守っていくか。これがやはり地域が奉仕もせないかんし、また市の予算もいただいて、史跡を守るあるいは文化を継承するということにもしていかなんと思っておるので、どちらにいたしましても、久谷地区は、非常に環境に恵まれた地域で、人情味も厚いということを魅力と感じておる次第であります。

【市長】 ありがとうございます。皆さんご存知のように私、前の仕事でそれこそ愛媛県くまなく、中国四国地方、九州までいろいろと行かせていただきましたけども、本当に各地訪ねまして、この土地っていうのは、すばらしい超して、すごいところだと思っています。それはやっぱりお遍路文化だと思いますね。言っていたので私魅力については結ばしてもらおうと思うんですけど、やっぱり何がすごいというか、昔の方の動きを想像するといいと思うんですけど、三坂峠から歩いてこの地にやっこられます。私も実際歩きましたけども、三坂峠から歩いてくると、松山平野が見える場所がある。お遍路さんはきっとほっとしたはずですよ。今、坂本屋のお接待も復活してますけども、ああいうお接待を受けるとほっとすると思います。46番さん、47番さん、札所がぽつぽつあるんと、続けてあるんとでは違うと思います。ですのでほっとするところがこの地だと思うんです。四国八十八箇所ありまして、四国の市、町、村は95あるんです。ということは88割る95すると、0.9何ぼ、ということは1つの市町村で1つも札所がないところって何ぼでもあるんです。札所が一番多く集まっているところが、市町村別でいうと松山です、8カ寺も集まっとなんです。ということは松山は外から来た人に優しくできる場所っていうのが、伝統的に言えると思います。しかもこの地には2つも霊場があるっていうのは、やっぱり人をいたわることが

できる場所、ほっとする場所、優しい場所というのがこの地の魅力だと思いますので、これはぜひとも、地元の方々中心に守っていただきたい。これはよその地域より特にここのよさだと思いますので、これは皆さんの共通認識にさせていただいて、そういうまちづくりをしていただきたらと思います。よろしく願いします。

【男性】 こんばんは。私、荏原地区の高齢者クラブの会長をいたしております。よろしく願いいたします。今は農業、少しずつやっておるわけですが、高齢クラブのお世話もさしていただいております、特に問題になっておりますのが、私たち周辺を見ましても、少子高齢化がものすごい進んでおるわけです。それが一番将来の日本を支える上でどういうふうに持っていったらいいもんか、解決策はないもんかということをおなりに考えるわけですが、非常に厳しいものがございます。特に市長もいろんなお話がございましたが、地方自治体を取り巻いておる環境は非常に厳しいわけですが、その中でも特に財政事情が全国的に大変厳しいということで、52万の人口の松山市におきましても大変ご苦労されていることと思っておりますし、市長のそういった苦労に対して心から敬意を表したいと思っております。こういう機会をいただきまして、市長に滅多にお会いすることもなくて、発言する機会を与えられて大変嬉しく思っておるわけでございます。国策ももちろんあるわけですがけれども、それぞれの自治体でも、今のこの日本の置かれておる少子高齢の社会というのは非常に大きな問題と思っておりますし、老人クラブの世話もしておりますと、つくづくそのことが感じることでございます。私自身も後期高齢者の部類に入りましたんで、なおさらそういうことを考えておるわけですが、四国で申し上げますと、今のままで行くと10年先、20年先、あるいは30年先を見ますと、現在大体10万人ずつくらい人口が減っておるわけですが、今のままで行きますと、あと10年、20年、30年を経ますと人口がものすごい減るということで、隣の香川県の人口に匹敵する80万あまり、人口が毎年日本の中から減っていくという数字が出ておるわけです。ということで、これからどうということになっていくかということ、いわゆる生産労働人口15歳から64歳までの働き手がものすごい減るということで、日本の産業そのものが非常に衰退することにもなりかねないと思っております。時間の制約がございまして割愛しますが、いずれにしても、今の若い皆さん方が子どもを本当に大事に問題なく育て

られる環境づくりをどういったふうにしていったらいいんか、国だけにおんぶせずに、地方自治体でも具体的に策を出していただいて、安心して子育てができる環境をつくってもらいたいというのが一つでございます。あと、もう一つ農業問題があるんですが次にしょうか。

【市長】 はい、子育てのこと、私から全体的な方向性を申し上げます。やはり、孤独とか個人が目立つ世の中になってきました。「こ」が目立つ時代ですね。孤独の弧であったり、個人の個であったり、とても寂しい時代になろうとしています。もう一つの「こ」という考え方がありまして、コラボレーションとか、コミュニティとか、そういうつながりのほうの「CO」を大事にしましょうという風潮も出てまいりました。私も実家は北条です、もう郊外の家ですよ。で、近所のおいさん、おばちゃんたちにも注意されて育った。それがよかったと思います。今ちょっとよその子を怒ると怖いな、みたいな雰囲気ありますけども、地域で子どもを守り育てることが大事だと思います。坂本幼稚園の芝生化も、その一つとしてやらせていただいたわけですけども、やはり地域で子どもを守り育てることが大きな方向性になると思います。

【社会福祉担当部長】 そういった中で、子育てに関して、松山市はいろいろな施策を展開しております。その一つが保育所の環境づくりであったり、例えば小学生が帰られた後、まだ両親が働いておる中で児童クラブを設置して、例えば荏原地区では荏原児童クラブで年間児童数65名の方がお預かりをさせていただいて活動をしておるとか、福祉の分野でも子育てに関して、さまざまな事業を展開しております。松山市全体が子育てをしていく、先ほど市長も申しましたように地域で子育てをしていく、社会全体で子育てをしていこうという取り組みを現在やっております。今ここで個々の事業を挙げられませんが、そういった姿勢で松山市はおるということをご理解いただけたらと思います。よろしく申し上げます。

【市長】 私からも、60で退職して今元気な方多いんで、ぜひともご参加いただいて地域で、っていうことを申し上げますと申し上げたいと思います。

【男性】 私は定年になりまして上野町で百姓をしております。今百姓は60定年で始める方が多い、百姓では若者でございまして、だんだん年取って農業離れていく人が多いんです。耕作放棄地とか、田が荒れて、山が荒れて、獣害も出る。

これを何とか百姓になれる人を増やしたいと、これについて何かご意見ございましたら教えていただいたらと。

【市長】 はい、わかりました。私はできるだけ皆さんの顔を見ながらしゃべりたいので、立ってしゃべらせていただきます。職員たちは手元に細かい数字などが入った資料がありますので座ったままになりますがご理解ください。農業はですね、私、小さいときに農業体験があるんですよ。農業に携わられてる方も多いと思いますけども、農業は結構しんどいです。暑くなる前に仕事したいから朝早く起きるとか、夜は選別するとか、物運ぶとしても重いですし、外ですからクーラーがあるか暖房があるかといったらそうでもないです、暑い、寒いがある。稲わら運ぼうと思ったら、首のほうかゆかったりとか、そういう農業体験がありますので、農業は何かしたいと思っております。アメリカの姉妹都市のサクラメントに行ったときに思ったんですが、外国はだだっ広い畑があって、ものすごい量生産してますから、「これ量ではもうかなわんな」と思った次第です。日本で、愛媛で農業しようと思ったら、これから高付加価値のものを生産していくのが大事だろうと。例えば、みかん、伊予柑でいいますと、平成3年はみかん、伊予柑は95パーセント、いわゆる今の、紅まどんなどか、せとかとか、カラマンダリンといった有望品種はその当時5パーセントしかありませんでした。今、愛媛県が一番理想的な割合っていうの出してるんですけど、これ65パーセント対35パーセントなんですね。みかん、伊予柑が65パーセント、そして有望品種っていうの紅まどんなどか、せとかとか、カラマンダリンっていうのが35パーセント。今、実態はどうかというと、みかん、伊予柑が75パーセント、有望品種が25パーセントです。あと10パーセント有望品種を上げれる。紅まどんなんか、東京のデパート行ったら1個千円とかしますから、それを納得して買っていかれますから、すごいなって思うんですけど、私もトップセールスを東京でやらせていただいているんですけど、そのためには2つの「く」、生産者の苦労、工夫を実際に現地に行って伺って、お話をさせていただくことにしております。そうやって苦労や工夫を伝えて、消費者に納得した値段で買っていただきたい、販路を広げていきたいと考えておりますので、これから松山の農業がすべきことは高品質、高付加価値なものをもうちよっと広げていければなと思っております。あんまり長くなるといけませんけども、ちょっと皆さんに胸を張っていただきた

いのは、かんきつの品種転換でライム、これ国産の物が少ないんですけども、今、松山、ライムの生産は日本一です。これを持続していきたい。アボカド、これも海外のものが非常に多いんですけども、今、松山、アボカド生産日本一です。ブルーベリー、全国の自治体別で5本の指に入ります、松山。ブルーベリー軽いですが、目にいいなんてことも言われておりました、人気になってますよね。健康にもいけそうだとということで、アボカド、ライム、ブルーベリー、この辺、物も軽いというのもあって、いいかなって思ってますので、こういうのでまた松山の農業を元気にしていきたいと思っておりますので、いろんな連携が取ればと思っております。よろしくお祈りします。

【男性】 この地域の魅力について、余すところなく説明がございました。その中で札所の件が出まして、ただ札所が、浄瑠璃地区に集中しとるんですね、2カ所あるんです。これあんまり知らんこともある、ほかのところから来れば、2カ所もあるん珍しいなという話があります。そのくせ、今度は参拝者が人と言うのは、浄瑠璃町の上がるところが非常に狭い。あそこで車をこすってみたり、離合に難渋しとると。この通りですね、ちょうど浄瑠璃さんの下は、拡張しております。県道ですね、あれ。ですが浄瑠璃寺の駐車場が上にあるので、上に難儀難儀上がれば、今度はおりにときにカーブが非常にやりにくいというようなことがあります、あんたこの浄瑠璃さんは、環境もいいとこだし見晴らしもいい。ところが非常に道路事情が悪いということ、友達あたりからたびたび耳にいたします。これをなんとか改修していただきたい、お願いしたらなと思っております。それともう一点、介護保険、皆さんも支払うと思うんですが、あんまり安くないような介護保険ですね。聞いてみれば、今度高齢になって自分が介護施設に入りたいと思ったときにはなかなか入れないというのが現状ということをお祈りしますが、こういう点はどうかお聞かせ願いたい。それと将来設計がありましたら施設の拡大をご説明を願いたいと思っておりますのでよろしくお祈りします。

【都市政策課長】 今おっしゃられた道路は県道でございます。確かに浄瑠璃寺、駐車場からおりにところが不便ということは、自分もわかっておるんですけど、これにつきましては県のほうに、今説明していただきました状況について説明させていただきます。またあとですね、県と現場のほうで立会できるような形で、ご

相談させていただくようにしますので、またよろしく申し上げます。

【男性】 川が下に入るとるんですが、あの上へ橋をばっと架けて向こう側まで拡張すれば、浄瑠璃さん出たところ。今1本橋渡っとんですが狭い。あれと同じようなもんをやって、あそこを確保してもらいたいと。

【都市政策課長】 また現場のほうでご相談させていただきます。

【市長】 これですね、僕も民間出身ですので、嫌いなのが、よく縦割りっていますでしょ。こういうときに話いただいて、「いや私松山市ですよ」「いやそれは県の話です」「それは国のですよ」と、確かにあるんですけど、このタウンミーティングではいただいたことは必ず、県のことでしたら県に伝えます、また国に伝えますので、「それは県に言ってください」とゼロから戻るっていうことはありません。県のほうに伝えます。ただ、県と実際に話す段階になって、「いや、ここをこうしてくれたらええんじゃがね」みたいなことは、やっぱり直接やっていると、より要望は伝わりやすいと思いますので、私どもで県にも伝えますけども、こういう道に関わるようなことでしたら、国道なら国とか、県道やったら県に直接言ったほうが「いや、そこまで大きな話しよんじゃないんよ」「ここをこうしてくれたらええんじゃ」っていう細かい要望とか突っ込んだ話とか、しやすくなりますので、我々からも伝えますけども、直接言っただけのほうがいい行政との付き合い方だと感じましたので、それをお伝えいたします。じゃあ介護保険料のことを。

【社会福祉担当部長】 介護保険料について説明させていただきますが、介護保険料は40歳以上の方全員にご負担をいただいて、65歳になると介護の申請とかあると、1号被保険者、その方が直接払うということになります。それ以下の40歳以上の方については、一般の全国で統一しておる保険料を一部ご負担いただくという2段階の仕組みになっております。それに国の財源、市の財源を投入して、施設等皆さんの介護の手助けをさせていただくというのが現状でございます。そういった中で施設の整備状況についてですが、今現在、松山市内で約980名くらいの方が施設に入りたいとお待ちでございます。これも市内においでる方、要介護度5の認定者のうちで、現在在宅かつ1年以内の入所希望の方に限定した数字でございます。と申しますのが、施設に入りたいという方は、1つの施設ではなく複数の施設を申し込まれる方もおいでます。また申し込んでいるん

ですが、市内から住所を変えて違うところでお住まいの方もおいでます。そういった中で、実数としての待機者を把握することが非常に難しくなっております。その中で、現在介護保険施設の整備につきましては、24年から26年の3カ年で、施設としては地域密着型の特別養護老人ホーム、これは定員を約30名未満としておりまして、145の居室を構えた施設を準備したいと考えております。またそれ以外に広域型という、定員数が30名以上という施設も用意したいと考えておりまして、合計で約320居室くらいの構えをしていきたいと思っております。それ以外にも、認知症があられる方にも対応できるグループホームを8施設、数にすれば144居室くらいの数を用意していきたいという計画でございます。ただこの計画については、松山市内にまだこういった施設がないところもあります。久谷地区については今現在、特別養護老人ホーム2施設、介護老人保健施設が1施設、認知症の方に対応できるグループホームが5、計8施設がございますが、中には全くそういったことがない校区もございます。松山市としましては、市内全体を見た中で充足率の低い、施設のないところから今後準備をしていきたいという基本的な計画を持っておりまして、将来的に松山市全体にこういった施設がいきわたる施策を展開してまいりたいと考えておりますので、ご理解をいただけたらと思います。よろしく願いいたします。

【市長】 比較的久谷は中では整備が進んでいるほうということなんですかね。

【社会福祉担当部長】 久谷地区は全体から見ると整備状況は非常にいいと考えております。よろしく願いします。先ほど言った900人近くの方がおいでますので、ただこれが、先ほども申しましたように実数として何人おいでるかというのは非常につかみづらい、一人の方がいろんな施設に申し込んで、この数も合計して入ったりしておりますので、そういった意味では松山市も整備はしてまいります。ただ実数がどれだけおるぞといたら非常につかみづらいといった状況でございます。

【男性】 テーマが3のほうへ行ったんですけど、どうしても1で市長さんをお願いをしたいことがあるんですが、私はちょうど小村で遍路道に沿った家です。いつもお遍路さんが横を通るのを子どものときから眺めておりました。それで今、世界遺産という大きな、私たちにとりましては夢のようなお話が浮かんでおります。しかしながら、松山市がこの世界遺産についてどういうふうに対応し、どう

いうふうに今後考えていこうとするのかということが、私はちょっと問題、私自身は市からのそういうことを認識しておりません。実際あるかもわかりませんが、山の中の大宝寺、岩屋寺から久谷に入ってまいります。いわば遍路道の松山市の玄関なんです。おりるとことは3カ所ありますけれども、その案内について、あるいはまたそれからずっと久谷大橋を渡って西林寺に行くまで、久谷地区を縦断しますが、そのときにもっと優しい丁寧な案内がもっとあっていいのではないかと。私も何回も歩きました、しかし、私が四国八十八箇所回ったときには、あるまちに行きますと「このまちは優しいまちだな、親切なまちだな」というのは、新しい道ができたとしても「へんろ道はこの道ですよ、自動車で行かれる方はこちらへ行ってください」というような、本当にきめの細やかな案内がされております。一番大きな問題としては、そこに県道の交差点がありますが、西林寺はこちらいうふうになっております。私が連絡をして、そういうふうを書くから歩く人もみんな自動車のほうに回ってしまうんだ、それが本来の遍路道を歩く人も最近増えてきた、外人の人も増えてきたし、女の人でも一人歩きも随分と増えてまいりました。そういう人にも優しい、本当の弘法大師が歩んだ、あるいは衛門三郎が歩んだこの昔の遍路道が残っておるのにもかかわらず、大きい道をどうしても皆さんが歩きます。それで正直なところ、私の横の昔の遍路道を通る人は半分になりました、歩く人は。当然自動車は通れませんが、歩く人が半分くらいになりました。それは案内板が今、自動車を中心に案内をしとるところに物足らんところがあるんじゃないかと。それを、地元でも工夫していろいろやとるんですけども、三坂峠の入口のところの3つのところが本当は松山の8カ寺の玄関口だということにもっとPRをしたい、そして松山に来たら「こんなに優しい道案内があったんか」というようにしたいと思うんですけども、世界遺産にひっかけて申し訳ないんですけど、世界遺産についての考え方と、そういったことについての市長さんの考え方がもしあるならばお聞かせいただきたいと。それからもう一つ、私の家の横には札始^{ふだはじめ}大師堂というのがあります、お寺があります。これは番外ですけども、衛門三郎が一番最初に札を納めたところで、札始大師堂というのがあります。この地区でもまだまだ知らない方大分おるとは思いますが、遍路道の横にあるんです。そういったことも付け加えてお願いしたいと思っております。ちょっと長くなりましたがす

みません。

【市長】 はい、それでは私からお話しをいたします。世界遺産に向けての動きがあんまり知らないという方もいらっしゃると思います、ちょっとかいつまんでお話をいたします。大きく3段階に分かれまして、まず世界遺産に登録ができたグループ、姫路城とか厳島神社、国内では12件あります。その次、暫定一覧表に載ってます、世界遺産予備軍っていいでしょうか、そのグループと、今四国八十八箇所は、暫定一覧表候補っていう、いったら予備軍の予備軍といったところで、私も全国各地に出向きまして、松山はこういうところですよ、優しいところなんですよって、私自身が八十八箇所のこと言ってますから、これはぜひともやっていきたいと思ってることです。案内板については、これできるようになりました。サポートができる仕組みをつくりました。今年になって「たからみがきのまちづくり」というのを掲げております。さっき言いましたように、この地区にも宝がいろいろあります。四国遍路も宝だと思うんです。その宝みがきをサポートする事業を始めまして、これは例えば公民館等を対象に、地域の宝の保存とか活用、継承することを目的に解説板とか、案内板の整備に対してサポートをする「地域の宝みがきサポート事業」をつくりました。これは、1地区上限30万円です。これを活用いただければと思います。これ担当は坂の上の雲のまちづくりチームです。はい、企画政策課長、今日も来ておりますので、またご相談いただけたら、そういう流れにもなろうかと。

担当だけもう一言、河合課長からお伝えしてください。

【企画政策課長】 今の「地域の宝みがきサポート事業」担当は坂の上の雲のまちづくりチーム、総合政策部にございますのでご相談をいただければと思います。先ほど市長申しましたように、1地区30万円ですが、年間で10地区程度の制限がございます。なので、必ず申し込んでもらったらその年にすぐにできるっていうわけではないんですが、10地区分は確保しておりますのでまたご相談ください。よろしくお願ひします。

【男性】 東方の水利の世話をさしていただいておりますが、水利やっける上で、農道なり水路の日常の維持管理、これをどういう形でやっていったらいいのか、というのが、今のところ水利やっけるで地元で判断しかねてる場所があるんですが。東方には荏原土地改良もございます。だから、その間での業務分担及び

費用負担の割合ですかね、そこで市で考えがあれば教えてください。

【市民部長】 水路にはいわゆる農業用の水路と、それから下水排水路、家庭の排水、浄化槽流してる、両方あるんですけれども、その態様によって、管理者が下水道部か農水か分かれるんですけれども、一般の下水排水路でしたら下水道部でやっております。その管理につきましては、例えば、管については改良区がやっておる場合がありますし、改良区ができない場合については、河川水路課でやってるところあります。後で、できましたら具体的に、どういう対応でやってるのかを教えていただけましたらお答えできると思うんですけども、後ほど個別でお話させていただいてよろしいでしょうか。はい、じゃあ持ち帰らせていただきますので、後で終わってから、私、三好と申しますが、直接お伺いさせていただきます。お願いします。

【男性】 今ちょうど、水路の関係、細かな話で重箱の隅をつつくような話になって申し訳ないんですけれども、今部長さんのほうで、維持管理の窓口という話があったんですけども、私も松山市のホームページを見たときに、確かに農道水路は農林土木とか、河川については下水道サービス課とかが窓口となっておりますと、日常管理については土地改良区などが窓口ですよというホームページの説明になつとると思うんですけれども、ホームページに載してあるということは、あくまでもあれは松山市民の方にいろんな、苦情なり要望あればこの課が窓口になりますよと、いう趣旨であると思うんですけども、私ちょっとお聞きしたいんは、そういう要望が出る以前の、事前の防災なりいろんな要望が出ることに対する対応ですかね。これについて、松山市としたら、窓口はあくまでそういうところですけども、その地域、地区のどういうところに期待しとるんかということをお聞きしたいと思うんです。いうのは防災については、野志市長さん肝いりで、松山市防災士を全国でもトップレベルで配置しとる、また学校にも、最近また配置するというようなことも聞いております。ですから、防災士というのはもっと大きな災害を多分想定されとるんじゃないかと思うんですけども、私もこの田舎のほうでは、小さな水路の災害とか被害とかについても地元地域として対応していかないかんのやないかと考えとんですけれども、そこらあたり、どういうふうにやっていったらいいんかということで、小さなことにも身をもって対応していただきたいと思っておりますので、そこらあたりお考えがあれば、お聞きしたいと思います。

【市長】 はい、わかりました。まず、遠慮なく言っていただくのが一番だと思うんです。例えば、道路に凸凹があるとかいったら、「どうするんじやろど何が係じやろ」とか思うことがあると思うんですけども、まず、松山市役所にかけていただいたら、こんなことなんじやけどとっていただいたら、「ああ、それだったら道路管理課ですね」とか言って振ることができますので、遠慮なく言っていただいたらと思います。

【都市政策課長】 水路、農道水路につきましては松山市で財産を管理しております。ですから、機能管理も当然松山市です。それで通常の維持管理はやはり一番身近な地元の方が管理していただいて、その中でやはり危険性があるとかそういう情報をいただければ、松山市で対応していきたいと考えています。

【市長】 今、防災士のことに触れていただきましたので、皆さんに、よいお知らせをさせていただきます。防災士、日ごろは、地元の方に啓発活動、災害を防ぐためにはこういうことが大事ですと、啓発活動を行う。そして、いざ大きい災害が起こった際には、東日本大震災があったように、消防署の人間が、だっと駆けつけるというわけにはなかなかいかない。そういうときに大事なのが消防団の方であったり防災士の方ですね。消防団はおかげさまで、松山は四国で一番多いです。女性消防団の数は、日本で一番多いです。これもっと増やしていきたいので、「I C い〜カード付消防団員証」を松山市新たにつくりました。これは、I C い〜カードがついてますから、伊予鉄道のバス・電車に乗る場合は10パーセント引きになります。消防団員証を持ってたら、お店で提示すると優待が受けられるとか、町ぐるみで命がけで活動してくれている消防団員さんを応援しましょうっていう仕組みをつくりまして、この春からやりだしました。そして、防災士というのは、日本の自治体別でいいますと、1位が松山です、1, 344名いらっしゃいます。2位が大分市です。大分市が1, 005名、ですから340人ぐらい引き離してるってことですね。3位が名古屋市です。名古屋市が225万人の街ですから、その225万人の町に松山市52万人の町が勝ってるっていうのは大変すばらしいこと。これは防災士は大事だということを、前市長のときから、育成を公費でしてまいりましたので、こんだけ増えております。これからも市民の皆さんの安全安心を大事にしていきたいと思っておりますので、こういう安心安全の取り組みは、しっかりとやっていこうと思っております。

【男性】 私は空家の有効利用がスムーズにできるようなことをお願いしたいわけですね。浄瑠璃町では空家が今、10軒以上あります。でも、いざ借りようとしてもなかなか借りれません。空家になった原因は、本人が病気ですと入院生活をしてもう帰る予定がない、また死去されて何年も放置していて、雨漏りやトイレ、畳も替えないと使用できないとか、また中の家具がそのままになるとか、中には仏壇が置いてあるとかで、結局借りれないということです。もう不動産屋さんにも言わずに、またその馬力もない方で、市はそういう空家の改修の一部を補助していただいて、若い子育て中の方、また年金生活者で庭つきがあって家庭菜園などでもしたいという方に、ネットで紹介していただくことで、スムーズに借りられるような方向でお願いしたい。それともう一つは、先ほどの農業の振興のことでご質問したのをもう一度司会者さん続けてお願いしたいと、この2つです。お願いします。

【市長】 空家の利用については、私もやりたいと思ってるんです。というのが、少子高齢化、まあ二つに分けましょう。まず、高齢化のことだけちょっと言いましょ。やっぱりこれからの地方自治体、どこもそうでしょうけども、団塊の世代の方とどうお付き合いするのかが、大事なキーワードになってくると思います。団塊の世代、例えば都会に勤めに行かれてる方は、結構田舎のご出身だったりしますよね。田舎ご出身で大都市で働いて、さあ退職じゃどうしよう、結構大都市で暮らしてたので、案外自分のふるさとじゃなくてもいいよというのがあります。例えば、島暮らしをしたい方いらっしゃいますよね、農村暮らしをしたい方いらっしゃいますよね。こういう方に来ていただいて、それこそ60で退職して元気な方いっぱいいらっしゃいますから、耕作放棄地も、こういう方に入ってきていただくと活用できたらとか思ってます。今、愛媛県が移住ネットという、移住を支援するホームページを持ってまして、愛媛空き家情報バンクがあるんですよ。これを活用するといいかんなんて思ったんですけども、これ様々な特典をアピールしながら情報提供をすることができるというものです。前に見ました、松山の物件も載ってたと思うんですけども。

【企画政策課長】 今、市長申し上げましたが、愛媛県に、県外から、都会の方が愛媛県内、愛媛県に住みたいっていうときに情報発信をしているサイトがござ

います。これ、松山市が単独でするよりも、愛媛県全体でPRしたほうが効果的
ってということで、愛媛県でPRをしているサイトがございます。ただこのサイト
には個人で登録することはできませんので、不動産業者、宅建業者を介して、そ
のサイトに登録する仕組みになります。詳しいお問合せは、企画政策課まで具体
的な物件がございましたら、お知らせいただいたら、不動産協会、宅建協会のほ
うはご紹介させていただきますし、この制度の仕組みについては、私どもでご説
明させていただきますので、ご連絡いただければと思います。

先ほど家の改修の補助というのがございましたが、これはなかなか個人の財産
なんで、そこでは対応ができかねるかとは思いますが、そういう物件の紹介、P
Rっていう仕組みはございますのでよろしくお願いします。

【市長】 私から、一言言わせていただきます。例えば今のところの空家の改修
だって「市がやったらええがな」「やって改修してくれてきれいにしとったら、人
も入りやすいけん、やってくらたらええがな」って、思われると思うんですけれ
ども、松山市の財政についてお話をさせていただきます。私も人間ですから、こ
うやってタウンミーティングを重ねて皆さんから「市長こういうことしてほしい
んよ」っていう要望が出ます。ある意味ちょっと乱暴な言葉使いますけども、市
長の人気取りだけのこと考えたら「わかりましたそれやりましょう」「わかりまし
たそれやりましょう」って言ったほうが市長は楽かもしれません。でも今、限ら
れた財政だっというのをご紹介をいたしますけども、松山市が一年間にお金が入
ってくるのを歳入と言います。で、出ていくほうを歳出と言います。円グラフを
描くと一番わかりやすいんですが、松山市の1年間に出ていくお金、一番大きな
ウエイトを占めているのが、民生費といういわゆる福祉にかかるお金です。これ
が40パーセントです。あと土木費とかいろいろなお金があるんですけども、一番
ウエイトが大きいのが福祉にかかるお金だと思ってください。これが、1年間で
福祉にかかるお金が、松山市だけで50億増えたんです。このうちに皆さんよく
聞かれると思います、生活保護費も含まれます、生活保護費。よく聞かれると
思いますが、松山市だけで1年間で20億円も増えたんです。何が言いたい
かという今、皆さんも聞かれると思いますけども、国においては1千兆円の借
金を抱えていると言われてます。1千兆円。国民、まあ1億人とすると割り算
をすると一人頭どれだけの借金をかかえているのか、というのがわかります。こ

ここまで来るのに誰か止められなかったと思うくらいです。中学の授業で出てきますけども国から、国庫支出金とか地方交付税交付金っていう形で、地方にお金が回ってきます。でも、大もとが、国が1千兆円借金を抱えているならば、当然地方に回ってくるお金がこれから膨らむというのはちょっと考えにくいですよ。と考えると、民生費が50億増えたら、どっかで50億絞らないといけない。生活保護費が20億増えたら、どっかで20億絞らないといけん。じゃないと、松山市の財政はどんどんどんどん下り坂になっていってしまいます。さっき、市長の人気取りするんだったら「これやります」「あれやります」「これもやります」言えたほうが私は楽ですと申し上げましたが、それをすると将来の子どもや孫につけを残すことにほかならないわけです。だからと言って何もしないわけではありません。こうやってタウンミーティングを重ねさせていただいて、今市民の皆さんは何を必要とされているのか、どの優先順位をつけるべきなのかということで、私たちから皆さんのところに行ってお声をいただく。優先順位をつけて、今、市がやるべきこと、優先順位をつけてやることにしよります。松山だけが厳しいわけではないんです。ほかの自治体も、厳しいわけですが、今地方の自治体というのは、こういう状況にあるんだということを頭に入れていただいたらと思います。ですので、できれば「わかりました、あれもやりましょうあれもやりましょう」って言いたいんですけども、なかなかそれができない現状にあるというのを説明をさせていただきました。これ言うと皆さん、手挙げりにくくなるんですけども、気にせずに挙げてください。声は大事ですから。

【女性】 昨年こちらに、東日本大震災の影響を受けてと言うとあれなんですけども、東京より転居してまいりまして、松山市に住まわせていただいています。坂本地区に住んでおりまして、名乗ることで自分が見世物になっているような気がするんですけども、子どもと一緒に母子でこちらに来ております。坂本地区で坂本小学校、坂本幼稚園、昨年度までは坂本幼稚園で市長と一緒に芝生も植えさせていただいて、私個人としては、とても身近に感じているんですけども、今年度も引き続き、坂本小学校で二人の子どもがお世話になっておりまして、校長先生をはじめ地域の皆さんにはとてもあたたかく迎えていただいているんですが、その中で、一番気になっていることは給食の食材ということです。市長という立場から今現状がどういった状況にあるかというのはご存知だと思うんですが、何分福

島から離れている地なために、なかなか一般的には厳しい状況であるということは皆さんご理解なさっていないと思うんですけども、松山におきましては地産地消を進めていただいておりますので、その点につきましては非常に安心しておりまして、それをやっていただいている以上、子どもの内部被ばくというのは、低く抑えられると確信しております。ただ、農作物、肉や魚ですね。そういったものをえさとか飼料という部分で、県や市にお問い合わせさせていただいたところ、やはり島ということで、向こうからやってくるということは非常に少ないと聞いております。内部のものでやっておりますのでというお話いただいておりますが、それでも徳島で保育所の給食から、1000ベクレル以上の干しシイタケの食材が使われたというのは、ご存知かと思うんですけども、やっぱり取り込みやすい食材というのがあるようでして、その辺を今後もより一層、地産地消を進めていただくと、ひいては、農業に関わってくる。先ほど市長もおっしゃった高付加価値とか、そういったもの、皆さんはびっくりされるでしょうが、東京、関東地方より東のほうでは、西の食材はとても重要なものになってきております。放射性物質が非常に少ないものというものは皆が求めています。そういったものが、新たな付加価値となってくると私は考えているんですけども、そういった意味でまた私もこちらで、両親も松山の出身で、両親のところにいるんですけども、やはり母子疎開でありましたが、移住も考えておりまして、空家を探しております。そういったところから、驚かれるでしょうが、都内は人口流出が止まらない状況です。新聞・テレビでは報道されていませんが、そういった意味でも、今は徳島がとてもそういうことに力を入れているようで、徳島に行こうという声も聞こえますが、松山は四国の中では都会だと思います。都内から来た人間にとっては松山は非常に住みやすいところですので、市長はじめ市の職員の皆様が安全だ、安心だという観点からではなく、最大限危険寄りの考えを持った上で、対応していただくことが、子育て世代を増やすこと、農業の活性化、地元の産業の活性化につながるというふうに時代が変わってきていると思いますので、また給食に関しては一番お願いしたいところなので、お考えを聞かせていただきたいと思います。

【市長】 はい、これはお子さんを持つ親として心配なことと思います。松山市は、今年の9月、2学期が始まることから、食品を地元中心にしようということ

にしました。今のところ順調に進捗をしてると担当課からは報告を受けてます。県内でも検査体制が、愛媛県の保健所で食品の検査体制が整ってきました。ですので、より保護者の方の安心を得られるように、もう一段検査体制を実施に向けた検討をっていうのを担当の部に指導をしている、指示をしているところでございます。今日、まさに担当の課長が来とりますのでご説明を申し上げます。

【保健体育課長】 保健体育課でございます。先ほど市長からも説明ございましたように、松山市では昨年の9月から、地産地消で食材を調達していこうということでまずは松山産、松山産がだめなら中予産、それがだめなら愛媛県産というふうに、松山市を中心に、より近場、近いところから調達していこうということで、現在のところは、中四国、九州、そして一部の食材で北海道産、大体そのあたりで調達ができております。今後、地産地消をもっと増やす方策として、農林水産担当部と協力しながら現在検討しているところです。それと、食品の検査ですけど、先ほど市長申しましたように、県のほうではその検査体制が整いました。ただ、松山市は、消費者庁の放射能の測定器の貸し出し事業があるんですけど、それが、松山市に当たりそうだということで、まだいつぐらいというのは未定ですけど、もしそれが松山市に入ってくるようであれば、そこらを使って検査もしていきたいと考えております。以上です。

【男性】 この久谷町からの松山市に向かう県道、非常に久谷大橋が混雑しとるわけですが、それで今現在、高井、南高井町から奥道後経由の今治、北条向いていく道路ができてると思うんですが、あれが久谷地区までの延長は将来あるものかないものか、それともう一件は、中野の、昔中野原と言ったんですが、2、3年前まで業者のほうの開発が進んでおりましたが、一応その話が止まりまして、現在、ごみ捨て場になっておるんですが、せんだっても、ごみを捨てとったから注意をすると「うちの土地にごみ捨てるんやからかまんじゃないか」という状態があったわけですが、松山市の環境のほうで、一度見に来ていただいたら立会いの説明をしたいと思うんですが、そういうことは可能でしょうか。

【市長】 まず、小野と北条を結ぶ道路ができたという話ですね。小野3号線という市道ができたんですが、あれが延長するかどうかについてはですね、それよりも、こちらに関わる道路としては、農道ですね、東温市から砥部の陸上競技場の南側を通過して砥部に向かう農免道路ができる計画がありますよね。それ白石課

長からいいですか。それと中野原のことについてはどこが担当になりますかね。

【大崎課長】 ご存知のように、平成8年から愛媛県におきまして農免道路5.9キロメートルを整備する予定になっております。もう既に、3分の1は供用を開始してるんですけど、国道33号から入ったところに結婚式場があるんですけど、その先のトンネル400メートルを今工事をしております。加えて、そこから800メートル進んだところの64メートル、ここはまだ供用を開始しておりませんので、この64メートルとトンネル400メートルにつきましては、25年度までに完成する予定と聞いております。さらに平成25年度からは県道久谷森松停車場線から県道三坂松山線までの3期区間の事業着手して平成29年度を目指して、開通していくことになっております。その結果、農耕車両の円滑な通行とか、一般利用者における三坂松山線を経由して運動公園へ至る利便性なども高まるものと考えております。以上でございます。

【市民部長】 廃棄物の問題。各地でよくお話聞きますけども、我々申し上げるのは、捨ててる現場ですぐに通報していただきますと、廃棄物対策課が指導をしたり、取り締まりとかやってるんですけども、今ご相談いただいたことは、現場を見ないと、どこの場所でどのようなものがとありますので、そのあたりまた終わった後、お話聞かしていただいて、どういう手当てができるのか、また持ち帰ってから改めてご連絡するというところで、ご理解いただいたらと思います。

【男性】 身近な問題で農業問題ですが、獣害による耕作放棄地もあると思います。それで、自治体として獣害に対する施策、予算どのぐらい、どういう施策をとっているかをお教え願いたいのと、そして獣害、山間部日本全国獣害で困ってるわけですが、例えば、禁猟区、禁猟期間等に、これたまらんけん、何らかの方法で駆除する場合、罰則、そんなことして罰則くろうたんじゃけがをするよりも大変、たまりませんから、罰則等あるのかどうかということ。それと、最近まあ、これどこともですけど、猿が出てきまして、山間部の方、猿に大変困つとると思うんですが、この下のほうまで猿が出てきまして、大変困ったなあって嫁さんも言ってるんですが、例えば今おっしゃったように、何らかの施策、通報したら追っ払うとか、そういうことできんか、ひょっと思ったわけですが、ご意見をお願いいたします。

【市長】 この有害鳥獣対策、猿ですとかイノシシですとか、鹿とかいろいろあ

ります。これについては取り組みを強めております。例えば、元々イノシシが2万円、猿が3万円、これ狩猟された場合それ買い取るっていう仕組みだったんですけど、元々予算があって、予算が来たらもう終わりですっていう形だったんですけども、その予算の枠を広げるようにしております。これまでは個人の方が柵を設置された場合に補助が出る形だったんですけど、共同で設置していただいたらなお広がるので、共同で設置していただいた場合にも補助が出るようにしております。そして狩猟免許。狩猟免許を持つ方が、大分高齢化してるので狩猟免許を若い方が取っていただけるとありがたいので、狩猟免許を取るための助成をしているところで、とにかくこのイノシシの問題は大変な問題、各地で問題になっていますので、これはまた取り組みを強めているところですが、私も頭悩ましてるのが、イノシシは何匹もまとめて産みますので、どこの自治体もやってるんですがなかなか追いついてないという現状です。これ常にアンテナ張ってまして、取り入れるものはできるだけやると、唐辛子のカプサイシンを札につけておくとイノシシは3カ月ぐらい来ないとか、イノシシの肉をただの肉として使うんじゃなくて、ソーセージにするととてもおいしいというのを九州大学が調べたそうで、これをまた利用できないかというので、いろんな方策を考えているところです。これについてはこれからも、限られた予算ということになってしまうんですけども、取り組みを強めていきたいと思えます。あと、罰則については持ち帰らせていただいて、お返事をさせていただこうと思えます。

【男性】 格闘してやってやろと思ったりするときもあるんですよ。

【市長】 いやイノシシは、皆さん戦わんほうがいいです。私、経験があるんですけども、イノシシは怒ると、牙がかっとう開いてくるんですよ。牙でかみ切ったらすばっと切れますから、イノシシは本当戦わないほうがいいですから命に関わりますので、お気をつけください。お願いいたします。

【女性】 すみません。娘がどうしても言ってほしいということがあったので、給食のことにに関してなんですけど、実際私が見たわけではないんですが、給食の量が最近少し減っているということなんです。以前に比べて量は少ないというのと、大人にも味見をしてもらったらわかると思うんですけど、味が大変薄いんですよ。もちろん栄養面とか、栄養士がちゃんと健康のこととかを考えてやってくださってると思うんですが、東温市とか、北条市とかの献立を見てみると、松

山市の献立がちょっと変化に乏しいのかなっていう気がするので、もう少し子どもたちの意見を取り入れていただいたらなって思うのが現状です。すみません。

【市長】 わかりました、ありがとうございます。これはやっぱり中学のお子さんやったら給食楽しみでしょうからね。これは声として受け止めます。松木課長から何か。うちが極端に量が少ないとかいうことはないですよ。

【保健体育課長】 私給食のほう担当してますけども、私が食べた範囲では私は一番おいしいと思ってるんですけども、確かに、健康のために薄味にしてるといのは確かでございます。ですからどうしてもご家庭が濃い味でしたらちょっと子どもさん、物足りないかなというのは、あるかなと思います。量につきましても、中学校は何キロカロリーということで決まっておりますので、それに合わせた量はきちっとつくっておりますので、少ないということはないかとは思いますが、一応、また学校に問い合わせをしたり、あと調理場にまた聞いてもみたいと思います。

【市長】 今日は、あっという間に過ぎたような感じがいたします。ちょっと手挙げれなかったんよっていう方もいらっしゃるんじゃないかと思っておりますので、どうぞ松山市には、わがまちメールといたしまして、市長に直接メールとか、はがきで寄せていただくこともできますので、どうぞお使いいただいたらと思います。そして、今日給食の話題が出ましたけども、確かにご心配なことと思います。私も昨年来、給食について担当課と意見を重ねてまいりました。改めて、給食ってなかなか仕組みが複雑だと思いましたが、例えばAという食材やめて、Bという食材にしたらどうですかって申し上げるんですよ、皆さんもそうだなって思われると思います。で、Aを買わない献立に変更したら、まず調達価格が変わってくる。皆さん学校給食は保護者の皆さんから材料費として給食費をいただいております。そうすると調理の工程が変わる、となると調理に要する時間も変わる。学校給食は決まった時間に届けないといけないので、時間というものもなかなか問題になると。最も大切な栄養価も変わってまいります。ですので、食材変更で特定の栄養価が充足できなければ、別に代替する食品で補うことも必要になってくる。こういうことが、給食にはある。さまざまな要素が、バランスをもって給食が成立してるんだなと思いました。私、去年2学期にできるだけ松山市の食材を使って地産地消の食材をっていうのでGOを出したんですけど、中には、福島第

一原発から遠く離れた松山市が、稲わらを食べてる牛肉を使わないようにしましょうって、横浜に次いで2番目だったんですね。地産地消で行く、それで調達できなければ同心円状に広げていくっていうのをやりましたんで、スタンドプレーじゃないか松山市の、っていう声もいただいたことがあるんですけども、決してそうではなくて、給食に保護者の方が不安を持っていると、それはお子さんにも伝わるでしょう。お子さんが、不安を感じながら食事をするっていうのはいかなものかなって思ったので、このような措置をさせていただきました。災害についても給食についても、市民の皆様の安心安全が第一だと思っておりますので、こういった取り組みをまたしっかりしていこうと思っております。

最後になりますけども、地域の魅力について一番ご存知なのはやはり地域の方々でございます。地域の方々が中心となって、住民主体のまちづくりをするのが一番いいやり方だと思っております。それは、行政は何もしませんっていうものではありません。まず住民の皆さんがまちづくり携わっていただいて、我々もしっかり汗を流します、しっかりサポートしますっていうのが、これからのいいまちづくりのあり方だと思っております。これからも、皆様のお力添えをいただきまして、また言いにくかったらメールですとかはがきで寄せていただいたらと思います。しっかりとしたお答えを返させていただきたいと思っておりますので、これからもまた言っていただいたらと思います。前向きにまちづくりができればと思いますので、これからもどうかよろしく願いいたします。今日はありがとうございました。

——了——